

我が国における牛海綿状脳症（BSE）対策に係る食品健康影響評価

平成17年5月

食品安全委員会

目次	頁
1 はじめに	4
1.1 経緯	4
1.2 審議開始にいたるまでの主な議論	5
1.2.1 「中間とりまとめ」案の座長及び座長代理一任後の 検討の経緯	5
1.2.2 諮問の内容に関する主な議論 BSE 検査月齢の見直し トレーサビリティ 飼料規制 SRM 除去とピッシング	5
1.3 審議の基本方針	6
2 リスク評価に関する基本的考え方	7
2.1 考え方のモデル	8
2.2 主な論点 飼料規制の実効性 BSE 検査 SRM 除去 ピッシング	8
3 諮問項目に関する評価と見解	10
3.1 定性的リスク評価	10
3.1.1 定性的リスク評価の考え方	10
3.1.2 定性的リスク評価の具体的方法	11
3.1.2.1 食用牛の BSE プリオン蓄積度に関する項目	11
3.1.2.1.1 侵入リスク	11
3.1.2.1.2 飼料規制	12
3.1.2.1.3 BSE プリオンの体内分布	13
3.1.2.1.4 疑似患畜の検査	13
3.1.2.1.5 死亡牛の検査	13
3.1.2.2 食肉のプリオン汚染度に関する検討項目	14
3.1.2.2.1 SRM除去/汚染防止	14
3.1.2.2.1.1 スタンニング	14
3.1.2.2.1.2 ピッシング	14

3.1.2.2.1.3	SRM除去	14
3.1.2.2.1.4	せき髄組織の飛散防止	14
3.1.2.2.1.5	衛生標準作業手順	15
	(SSOP)	
3.1.2.2.2	と畜検査	15
3.1.2.2.2.1	ELISAテスト	15
3.1.2.2.3	その他	15
3.1.2.2.3.1	トレーサビリティ	15
3.1.2.2.3.2	検査陽性牛の排除	15
3.1.3	BSE検査対象月齢の見直しに伴う定性的リスク評価	15
3.1.4	今回のリスク評価における課題	17
3.2	BSE検査月齢の見直しにかかわる定量的リスク評価の試算	17
3.2.1	暴露リスクの面からの評価	17
3.2.1.1	評価モデル	18
	(1) 定量的評価のためのモデル1 (汚染牛レベル)	
	(2) 定量的評価のためのモデル2 (人の暴露リスク)	
3.2.1.2	日本におけるBSE汚染	21
3.2.1.2.1	飼料規制前	22
	(1996年から2001年まで)	
3.2.1.2.2	飼料規制後	23
	(2001年10月から2003年7月まで)	
3.2.1.3	日本におけるBSEの人への暴露リスク	24
	(2005年)	
3.2.1.3.1	感染価に関する考え方	24
3.2.1.3.2	BSE検査とSRM除去により	25
	低減される暴露リスク	
3.2.1.3.3	BSE検査を21ヶ月以上とした場合の	25
	BSEの人への暴露リスク	
	リスク評価 - シナリオ - 1	
	リスク評価 - シナリオ - 2	
3.2.2	定量的リスク評価による検査月齢の見直しに関する見解	27
3.3	SRM除去によるリスク低減効果に関する見解	28
	と畜解体法の実態	
3.4	飼料規制に関する見解	29
	輸入飼料に係る交差汚染の防止	
	販売業者における規制の徹底	

牛飼育農家における規制の徹底	
3.5	BSE に関する調査研究の一層の推進 30
4	結論 31
5	おわりに 32
	<u>参考文献</u> 33
6	(参考)「今後のために」 36
6.1	SRM 除去によるリスク低減効果の準定量的リスク評価モデル(私案) 36
	定量的暴露リスクの考え方(モデル)
6.2	飼料規制によるリスク低減効果の準定量的リスク評価モデル(私案) 38
	飼料に関する定量的リスク回避の考え方(モデル) 38
	飼料に関するリスク回避の定量的評価の考え方(モデル-1) 39
	飼料に関するリスク回避の定量的評価の考え方(モデル-2) 40